欧州

技術ソブリンパッケージ（Tech Sovereignty package）

AI基盤投資強化で、EUのデジタル分野の自律性を強化へ

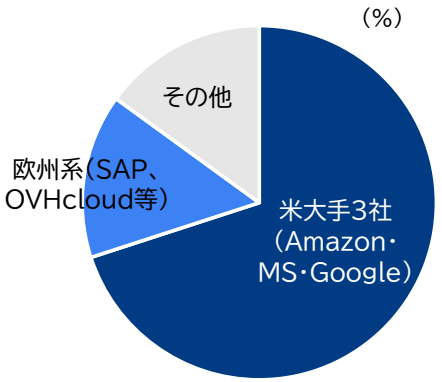
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 技術ソブリンパッケージ（Tech Sovereignty package）の概要

①欧州半導体法2.0	• AI特化チップや光技術等の先端分野を強化 • 欧州製半導体活用等の需要喚起策
②クラウド・AI開発法	• データセンター(DC)容量を5～7年で3倍に拡張（25年時点で約12GW）。 • 「データセンター加速ゾーン」の指定 • フィジカルAI、産業特化モデルの開発強化など
③オープンソース戦略	• 特定ベンダー依存回避のための手段としてオープンソースを強化
④エネルギー分野のDX・AI戦略ロードマップ	• DC容量目標達成に向け、電力系統への接続申請プロセスを改善(申請順から計画の進捗状況を重視、投機的な案件を除外等) • DC格付け制度の導入(エネルギーや水効率等)

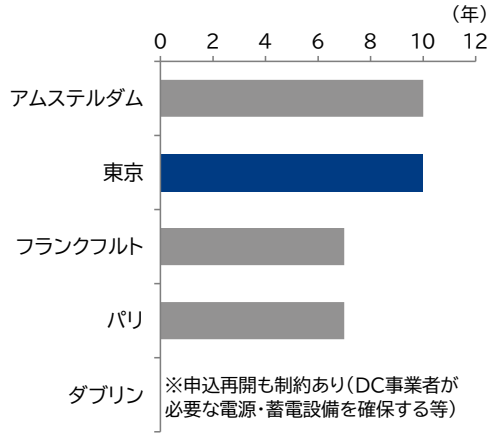
注：本パッケージは欧州委員会の提案段階であり、欧州議会・閣僚理事会との調整過程で内容は変わる可能性がある。
出所：欧州委員会を基に三菱総合研究所作成

2 欧州のクラウド市場シェア



注：24年時点。クラウド市場はIaaS、PaaS等が対象。
出所：Synergy Research Groupを基に三菱総合研究所作成

3 主要DC拠点の電力系統接続待ち期間



注：50MWのDCを新設する場合の平均待ち時間。
出所：JLL「2026 Global Data Center Market Outlook」、EirGridを基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

技術ソブリンパッケージ（Tech Sovereignty package）の概要

- 欧州委員会は、デジタル分野の自律性や基盤強化を目的とする「技術ソブリンパッケージ（Tech Sovereignty package）」を発表（図表1）。同パッケージは、①欧州半導体法2.0、②クラウド・AI開発法、③オープンソース戦略、④エネルギー分野のDX・AI戦略ロードマップ、で構成される。
- 欧州委員会がソブリン（主権）確保を重視する背景には、海外企業への高い依存がある。例えば、生成AI活用等に必要なインフラであるクラウドサービスは、米国大手3社の欧州市場でのシェアは約7割である一方、欧州系プロバイダは約15%にとどまる（図表2）。生成AIの基盤モデルについても、Mistral（仏）等が開発しているが、モデルの性能では米中とは差がある。
- 生成AIは競争力や安全保障を左右する要因となりつつあり、EUは域内のインフラや技術を強化する方針である。例えば、②クラウド・AI開発法では、AIの処理能力を左右するデータセンター（DC）容量を3倍に拡張することを目指している。また、AIモデル開発は、フィジカルAIや産業特化モデルなど、EU企業の競争力を左右する領域に重点を置いている。

日本への示唆

- デジタル分野での自律性や基盤強化は日本にとっても共通の課題である。
- 例えば、生成AI活用を支えるDCと電力の確保では共通点が多い。特定の都市にDCが集積しているほか、DCを新設する際の電力確保（系統接続）に要する時間も長い（図表3）。欧州委員会の案では、電力系統への接続申請プロセスを改善するため、接続申請順ではなく、DC計画の進捗状況で判断することで投機的なDC計画の抑制を狙っている。また、フランスは、パリ以外の電力や土地に余裕がある地域へのDC立地誘導政策を公表している。
- 欧州委員会の提案は、日本の「人工知能基本計画」などの政策と類似する点も多い。デジタル分野の競争力強化を目指す日本にとっても参考となるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.